

技術と信頼

専務執行役員
技術開発本部長

岡部一彦

Kazuhiko Okabe
Senior Managing Executive Officer
Research and Development Division



電車に乗る。すると、着席している人の半分、いやもっと多くの人々がスマートフォンにらめっこしている光景を目の当たりにする。確かに、スマートフォンは人と人を繋ぐコミュニケーションはもとより、インターネットを通じて膨大な情報源へアクセスできることから、ニュースの閲覧やレストラン探しなどの調べもの、そしてホテルの予約や買い物などの日常的な消費活動にも使用され、今や人々の生活になくてはならないものとなってきた。さらに、そのスマートフォンを一つの子局として、腕時計や健康情報デバイスなどがリンクされ、新たな情報を提供することにより、私たちの生活がより快適な、面白いものとなりつつある。私たちは、スマートフォンの技術の内容を詳細に知らなくても、その利便性の高さに大いなる魅力を感じて使用しているのだ。

さて、最近コンピュータが車を自動運転する、囲碁の対局でプロ棋士を破る、小説を書くなど、人工知能に関する話題がメディアを通して頻繁に伝えられるようになった。コンピュータが深層学習などにより知能を高め、ある目標の達成に向けて最適な経路を見つけるための判断能力を持ちつつあると言われており、将来人間の社会活動の多くがコンピュータに置き換わるのではないかと、とも予想されている。ただ、先頃話題になったコンピュータ囲碁プログラム『アルファ碁』とプロ棋士の対局では、その4局目に『アルファ碁』が悪手を連発し敗れた。メディアでは、この結果と合わせて、なぜその悪手を打ったのかが解明されていないことも伝えられている。ゲームの勝ち負けを左右する判断ミスは、人々の生活に影響を与えるものではない。しかし、将来人工知能が医療関係や大規模なインフラシステムなどに適用され、何らかの判断ミスが社会的に大きな影響を及ぼしたにもかかわらず、その理由が論理的に説明されない場合、私たちはどのように考えるのであろうか。人工知能を活用した新しい技術は、今後多くの実地

で適用されることになるだろう。しかし、それと同時に、この技術に対する社会的な受け止め方を踏まえながら、信頼という点についてもしっかりと議論が進められなくてはならない。

東日本大震災から5年余りが経過した。地震、津波により貴重な人命や、地域経済の繋がりなど多くを失った。そしてまた、技術への信頼も失われたものの一つであったと思う。石油ショック以降の我が国の高度経済成長を、エネルギー供給面から支えてきた原子力技術への信頼が損なわれ、いわゆる科学技術全般に対する信頼までもが同時に揺らいでしまったと思っている。技術とは何なのだろうか。広辞苑によると、「科学を実地に応用して自然の事物を改変加工し、人間生活に役立てる技」とある。原子力技術は、その技術に本来求められている姿を果たすべく、あらためて信頼を得ていかななくてはならない。

従来、技術は一つの論理的な道筋に則り形作られ、理論と現象(実際に起こること)を検証したうえで、実地で活用されてきた。これまでの科学技術の歴史が証明しているように、技術はその正当性をしっかりと論理的に理解した人々によって用いられてきたと考えられる。スマートフォンも、そうした基盤の上に立って発展し続けているのだ。

今後増々高度化・複雑化する技術を人々に信頼してもらうために、私たちはどうしたら良いのだろうか。あらためて私たちが持つ技術をしっかりと確立したうえで、その内容を人々の目線に立って分かりやすい言葉で丁寧に説明し、かつそのメカニズムなども実際に見て・触れてもらいながら、理解を得られるよう努めるほかないと思う。遠回りになるかもしれないが、そうした地道な活動こそが結果的にはその技術への信頼を高めることになると思う。人々が安心して技術を使うには、そこに信頼がなくてはならないのであるから。